

〔藝藩通志〕<sup>十八</sup> 安藝國嚴島古文書

水越村 壹處貳段 田常荒也 築原村 壹處伍段 田常荒也

諸木村 壹處壹町肆段佰貳拾步 略 中

仁平肆年拾月拾壹日

圖師和泉 略 下

〔東寺百合古文書〕<sup>百八十二</sup> 安藝國井原村事地頭高藤二入道號神官不勤警固役云々甚無其謂早可令催促且相尋當村知行之由緒可令注進之狀依仰執達如件

建治二年八月廿四日

武藏守 在判

相模守

武田五郎次郎殿

〔藝藩通志〕<sup>十八</sup> 安藝國嚴島古文書 寄進安藝國己斐村 除五事

右爲嚴島社廻廊以下造營料所奉寄如件

貞和四年八月廿六日

正二位源朝臣

〔道ゆきぶり〕五月十九日備後の尾道より安藝國ぬたといふ所にうつり侍道は南東へ出たる山ありびがたをへだてたりいぬるにそびていそ路はるかにゆくに吉和といふ所あり 略 中はつきの廿九日あきの國ぬたのさとをたちて入野といふ山ざとをとり侍るに此所はむかし小野のたかむらの故郷とてやがてたかむらともをのとも申侍るとかや大なる山寺あり今夜は高谷といふさとにとまりぬ 略 中 此山 大こえすぎて瀬野といふさとありこゝもみなやまあひのほそ路なり

〔安西軍策〕尼子發向吉田之事

同年<sup>九年</sup> 天文 八月尼子民部大輔晴久朝臣藝州吉田へ發向ス 略 中 毛利家與力ノ藝陽ノ侍共モ勝